

○ 本校の概要

児童数454人、学級数18(通常の学級13、特別支援学級5)、教職員47名から成っている。開校83周年を迎え、地域の中心として愛されている。
 ・児童は、明るく、元気よく学校生活を送っている。自分で考え、自分の言葉で表現することが苦手な児童が多い。⇒本校の重点課題として取り組んでいく。
 ・教員は「分かる・できる」授業づくりに向けて、ICT機器の活用、特にタブレット端末を活用し、児童の意欲関心を引き出す授業改善に取り組んでいる。生活指導では「他人のことを心から考える児童」「豊かな社会性を育てるために、心の教育を日常的に繰り返し指導している」。
 ・保護者・地域は協力的であり、「学びの場」としての地域教材化できる。「地域を見つめ 地域に学び 地域に還す」地域学習を目指して行く。
 ・特別支援学級(四組)は41名であり、個別最適化を目指した教育活動に取り組んでいる。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	評価人数	学校関係者記入欄 コメント
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にふさわしく対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	ICT機器を活用した授業を各学級が行った平均回数。 4:毎月10回以上。 3:毎月8回以上。 2:毎月6回以上。 1:毎月6回未満。	4		A	
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのつくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3				B	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	2				C	
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	2				D	
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	1					
		主体的・対話的で深い学びができる授業を構成し、児童が自ら考え、思考力を高める授業を行う。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	1					
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	月に5冊以上の本を読んでいる児童の割合。 4:85%以上 3:75%以上 2:60%以上 1:60%未満	4		A	
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2〜3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3				B	
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	2				C	
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	1				D	
		読書学習司書や読書月間等の取組を通して、児童が本に親しみ、図書館を利用する環境を整える。	4:児童の読書量が月10冊以上であった。 3:児童の読書量が月7冊以上であった。 2:児童の読書量が月5冊以上であった。 1:児童の読書量が月5冊未満であった。	1					
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心を培います。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	様々な取り組みを通して、自分自身に対して自信をもつことができた児童の割合。 4:肯定的な回答をした児童の割合が80%以上 3:肯定的な回答をした児童の割合が70%以上 2:肯定的な回答をした児童の割合が60%以上 1:肯定的な回答をした児童の割合が60%未満	4		A	
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2〜3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3				B	
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	2				C	
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	2				D	
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておこなった会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	1					
		毎日の授業はもちろんのこと、学校行事、学年行事、学級活動を通して、自分の行動に自信をもたせ、他者のことを心から考える場面を設定する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	1					
プラン4 体力の向上と健康の増進を図る意識の向上をめざします。	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組結果が6月より10月に向上した児童の割合。 4:70%以上 3:60%以上 2:50%以上 1:50%未満	4		A	
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3				B	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	2				C	
		校内研究・研修を核として、体育授業の指導技術を身に付け、自身の授業力を向上させる。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	1				D	
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりたい。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	ユニバーサルデザインを生かした授業を1日1回以上行っている教員の割合。 4:75%以上 3:60%以上 2:50%以上 1:50%未満	4		A	
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2〜3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3				B	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	2				C	
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:1回以上行った。 3:学期に2〜3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	1				D	
		ユニバーサルデザイン・特別支援教育の視点を生かしたわかる・できる・楽しい授業を行い、児童の学びの充実を図る。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:70%以上の教員が行った。 1:70%未満であった。	1					
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:1回以上更新した。 3:学期に2〜3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	地域行事やPTA行事に1回以上参加した教員の割合。 4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	4		A	
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の受容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	3				B	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期1回以上行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	2				C	
		地域防災訓練や地域行事、PTA活動に教職員が積極的に参加し、地域の拠点としての役割を果たす。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	1				D	

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。
 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す